

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東北生活文化大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウホクセイカソブシカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	ファッションビジネス実務実習
	学部・研究科等名	家政学部
	担当教職員名・役職	井上美紀・准教授川又勝子・准教授小野寺美和・講師
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	8
受入企業等数	5	
受入企業等名	(株)アルダン・(株)コナカ・ギャップジャパン(株)・(株)サンエービーディー・(株)ワールドストアパートナーズ	
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アパレル企業の店舗等において流通販売業務、品質管理、消費者対応等、受け入れ企業が行っている通常業務に社員と一緒に取り組むプログラムを実施。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学服飾文化専攻科目の「流通・消費・情報」について学ぶ選択科目の一つとして、アパレル企業において実践的な人材となるように。また、2年次以降の学習目標を明確にするための科目と位置づけて実施している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	社会人として必要なマナーや仕事をする上での心構えについての講義、履歴書の書き方講座を行った。さらに県内のアパレル企業についての調査、実習企業の概要・業務内容についての調査(現地調査を含む)を行った上で、実習における各自の目標を策定させる。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習日誌(その都度記入)を元に、実習全体についてのまとめを記入させた。また、礼状指導を行いながら、担当教員と実習について振り返り、これらの内容を報告会で発表させ、情報共有を図った。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習期間中に担当教員が実習企業を訪問し、学生及び企業担当者との面談を行った。実習終了後も教員が電話で状況確認を行った。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前指導時に各自に設定させた実習目標(レポートで提出)が、どれくらい達成できたか、また、新しく見出された目標等について、実習日誌のまとめページに記述させ、報告会でも発表させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間9～11日間(うちインターンシップ実施期間3～5日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	当実習は、1年生を対象に、今後の実習意欲の増進と服飾業界・企業についての理解を促し、社会人のあり方について考えさせることを目的としている。そのため、事前・事後学習に多くの時間を取って、企業実習は3～5日間としている。履修者が1年生ということもあり、受入企業の負担を考えると、この日数が適切である。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前に担当教員が、受入れ企業を訪問し、実習の目的や内容について相談し、プログラムを設計している。企業の担当者は実習中、学生に適宜助言を与え、実習効果を高めている。また、企業実習中の評価について、企業担当者からの所見書と4段階評価を提出してもらっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.mishima.ac.jp/tsb/wp-content/
問い合わせ先	大学等名	東北生活文化大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	学務室長
	担当者氏名	鈴木裕行
	電話番号	022-272-7513
	メールアドレス	dkyomu@mishima.ac.jp